

マルセイユメロン

1. マルセイユメロンの魅力

1) 作付体系 凡例 : 播種 : 定植 : 開花 : 収穫

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型	— — — — —											

2. 栽培のポイント

- ・通常メロンに比べ、草勢がおとなしく環境の影響を受けやすいため、収穫終了まで草勢を維持させる。逆に、水田で栽培する場合は、地下水位が高いと草勢が旺盛になりやすいので、排水対策を必ず行なう。
- ・目標着果節位の花芽は、育苗期間中に分化しているため、育苗期の管理を徹底し、目標着果節位に安定して着果させる。

3. 栽培の手順

1) 育苗

播種

- ・10a 当たり播種量は 400 粒とする。播種箱数は 4 箱 (400 粒 ÷ 100 粒/箱) 必要である。
- ・育苗に必要な土量は、播種床で 32L (4 箱 × 8L/箱) である。
- ・播種床の播種方法は条間 5cm、種子間 2 ~ 3cm 覆土厚 0.8 cmにする。
- ・種子の向きを揃えて播種する。



写真1. 鉢上げ後の様子

鉢上げ

- ・鉢に必要な土量は 180L (400 鉢 × 0.45L/9cm 鉢) である。また、苗床 1 m²あたりの鉢数は 9 cm ポットで約 120 鉢入る。
- ・鉢上げは子葉が展開したら (播種後 5 ~ 7 日) 行う。遅れると植え痛みしやすい。

育苗中のかん水

- ・かん水は、天気がよく暖かい日の午前中に行う。夕方には床土の表面が乾く程度の水量が適当である。
- ・汲み置きして温めておいた地下水、水道水等を使用し、河川水や冷たい水は使用しない。

育苗中の温度管理

- ・目標着果節位の雌花は育苗期に作られるため、下記の表を目安に温度管理を徹底し健全な花芽分化を促す。

マルセイユメロン

表 1. 温度管理の目安

ハウス内 温 度		播種～発芽	発芽～鉢上げ (子葉完全展開)	鉢上げ～ 定植前3日	定植前 3日間
日中	気温	28～30	28～30	26～28	22～26
	地温		25	23	21
夜間	気温	28～30	22～24	20～22	16～18
	地温		25	22	16
備 考		濡れ新聞紙・こも等で遮光し乾かないようにする。	育苗期間は、鉢が乾き過ぎないように少量ずつかん水し、根の発育を促す。	寒さに馴らし、定植後の活着を促す。	

鉢ずらし

・葉と葉が重なり合い始めたら、鉢間の間隔を広げ十分に光が当たるようにする。

2) 圃場準備

施肥・耕耘・畝立て

・右記の施肥例を参考に、ハウス全面に基肥を施用し耕耘する。

・地下水位の高い圃場や排水の悪い圃場は、30cm以上の高畝とする。

灌水チューブ配置・灌水・マルチング

・畝立て後に灌水チューブを配置し、たっぷりと灌水する。

・灌水チューブは株際と株から少し離れた位置に2本設置する。

・定植1週間前までにマルチをかけハウスも閉め切って、地温を高める。

トンネル設置

・地温上昇、活着促進を図るため、2.4m以上のトンネル支柱を使って保温する。ポリは厚さ0.05mm以上を利用する。トンネルの容量は大きいほどよい。

3) 定植～開花までの管理

定植時期

・最低地温 16 以上を目安に、定植後も暖かい日が続く日を選んで植える。地温は地中深さ15cmのところを早朝(地温が最も低いとき)に測定する。

定植苗の選別

・本葉3枚を残し、できるだけ早めに摘心する。

・病害のない健全な苗を選び、本葉2.5～3枚が展開する頃に定植する。

定植方法

・株間90cmで定植する(栽植密度370本/10a)。

・定植位置は、畝の通路側とする。

・定植直後は、鉢土と植穴の土とをなじませるために、汲み

施肥例

(kg/10a)

肥料名	基肥
完熟堆肥	2,000
苦土石灰	120
ようりん	20
固形30号	50
有機化成A801	40
成分量	N8.2 P12.2 K8.2



写真2. 定植直後の様子

マルセイユメロン

置きして温めておいた水を根鉢の周りにたっぷりと灌水する(灌水チューブは使用しない)。

整枝

- ・伸びてくる子づるを約 30cm 間隔で均等に光を十分浴びるように配置する。
- ・摘心や芽かき等は一切行わない。

温度、水分管理

- ・活着後は灌水を控えてゆっくり生育させ、根を十分に張らせる。
- ・晴天の日中はハウス内を蒸らさないように 28～30 を目標に管理する。
- ・開花まではハウス内温度が 10 を下回らないように管理する。

4) 開花～収穫前までの管理

交配

- ・開花期から肥大期は、夜間の最低温度を 15 程度に管理し保温に努める。
- ・交配はミツバチを利用する。目標着果節の着果を確認したら、すみやかにミツバチの巣箱をハウス外に出す。
- ・1 株当たり 5～6 果程度の果実を、孫づるの 2～5 節以内に着果させる。



写真3. 理想の着果状況

水分管理

- ・着果後は少量多灌水を行い、肥大を促進する(裂果・根腐れに注意)。
- ・生育後期～収穫終了まではつるをしおれさせない程度にかん水する。

摘果

- ・親づる、子づる、孫づるの 1 節目に着果したものは、偏平果、小玉果になるため、曇雨天の日を避けて、見つけ次第早めに摘果を行う。

着果標示

- ・メロンが鶏卵大(交配後 5～7 日)になったものから着果棒を立てて、着果数と着果位置を明らかにする。

メロンパット敷き

- ・開花 15 日後頃にメロンパットを敷く(花落ち部分から同心円状にネットが入り始めた頃)。
- ・タイミングが早いと初期肥大が抑制され、遅いとネット不良や病害を受けやすくなる。

病害虫防除

- ・開花期以降にアブラムシ類、ハダニ類などの発生が見られ、多発すると果実の品質を低下させるため、発生初期の防除を徹底する。

5) 収穫

- ・開花から収穫までの日数は 50 日前後。
- ・収穫適期の判別は、へた周りの離層の出始めから完全に離層がまわるまでを目安にする。
- ・収穫が始まっても極力茎葉を踏まず、しおれさせないように注意する。



写真4. 収穫適期の離層の状態